

キャラクター名  
愛手 織人

プレイヤー名

シンドローム	オルクス ハヌマーン		ワークス	教師	カヴァー	教師
	オプション		年齢	25	性別	男
覚醒	無知	衝動	妄想	初期侵食率	34 %	
出自	有名人	経験	大成功	邂逅	同行者：玉野椿	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	27
肉体	1	0	0			1	行動値	13
感覚	2	0	0	2		4	(非装備時)	13
精神	2	1	0	2		5	戦闘移動	18
社会	3	0	0			3	全力移動	36

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	21		交渉	1	
回避			知覚			意志			調達	2	
運転：四輪	2		芸術：写真	7		知識：理科	2		情報：学問	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
巨岩/巨木	白兵	1r				
ナックルダスター	白兵	1r				
ナックルダスター	白兵	1r				
スターズ・ウィッチクラフト "流星群"	RC	8r+21		26	コスト：8、G値：10、対象：シノン選択、射程：視界、使用武器：巨岩/ナックルダスター/ナックルダスター	

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
AIDA	
ストレンジフェイス	

合計装甲： 0    合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリ	消費
D：発明品	P	N		
フィン・ブースロイド	P 感服	N 劣等感		
糸居実和	P 庇護	N 疎外感		
愛ヶ瀬綾星	P 慈愛	N 疎外感		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 10    残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シノン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
サイレンの魔女	5	5	メジャー	視界	シノン(選択)	対決	-	
効果： 攻撃力+(Lv*3)、装甲無視、コンセ組み合わせ不可								
ダンシングシミター	3	3	メジャー	視界	-	対決	-	
効果： 攻撃力+(所持武器Lv個*3)								
完全なる世界	3	5	メジャー	-	-	対決	100↑	
効果： 判定ダイス+1個、攻撃力+(Lv*3)								
メモリー：T市	1							
効果： 感情：慈愛								
真偽感知	1	2	メジャー	視界	単体	自動	-	
効果： 発言に嘘がないか見抜く								
無音の空間	1	-	メジャー	視界	単体	自動	-	
効果： 気配を消し去る								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

○アールラボの調査結果

・名前：愛手 織人  
 ・覚醒年齢：12  
 ・現年齢：25  
 ・シンドローム：オルクス/ハヌマーン

【備考】  
 自身の"領域"そのものに語りかけ、"領域"内の物を操る能力を持つ。  
 特筆すべきは"領域"の広さである。  
 一般的にはオルクスの能力者の"領域"の広さは視界内である事が多いが、彼の場合、「縦に広い」事が判明。  
 彼の"領域"は少なくとも地上から100kmまで広がっていると思われる。  
 その能力を使用し、宇宙に浮かぶ岩石を隕石として召喚、"領域"内で自由に操作する事が出来る模様。  
 UGNでは彼を要観察対象と認め、イリーガルという立場をとりつつ接触を続ける事を決定した。

○人物  
 T市公立高校の理科を担当する教師。  
 写真を撮る事が趣味であり、動物、風景など被写体は選ばないが、星空を撮るのが一番だと語る。  
 幼い頃に動物の写真を撮る為気配を消そうと無意識に《無音の空間》を使用し、オーヴァードとしての力を自覚し始めた。  
 「星空を見ていると、星と話が出来る気がする、生きている星たちを撮る事で、とんでもないスケールの生物を描写出来るように思える。」  
 「生きる事は有限、だがそれを永遠の物として複製する、芸術とは生への冒険である側面は拭えない。けれどそこが人間を芸術に縛り付ける魅力なんだ。」